

平成 22 年度 理研バイオリソースセンター レビュー検討委員会 諮問事項について  
マウス表現型知識化研究開発ユニット

1. 各室・チームは科学的に大きな意義のある業績及び社会的に波及効果の大きな業績を挙げているか。

総評： 着実な進歩で情報解析基盤の整備に貢献している。国際的にも認知される存在になっており評価できる。

1) 科学的に大きな意義のある業績として

- ・ 独創的な方向からの情報基盤技術を作っている。研究者が知りたい内容を直接調べることができ、さらに取り込む努力がされている。遺伝子からマウス表現型、そしてヒト疾患につながるシステムの構築は、21 世紀の医学を大きく変革する可能性がある。
- ・ データベースの統合は非常に大きなテーマであるが萌芽的でもある。また、SaNet や YAMATO などのプログラムを介した統合化により従来のデータベースを越えた新次元の情報をもたらす可能性があることは十分理解できた。具体的な実績としての提示は今すこしの時間がかかるように思われるが、これは目標としている分野が大きいことに起因すると思われる。
- ・ IT 戦略上、大事な研究であり実績も上がってきている。汎用性の高いものが出来上がってきており、研究者コミュニティーに貢献すると考える。

2) 社会的に波及効果の大きな業績

- ・ 国際連携を通して国際的にも認知される存在になってきている点は評価できる。上位オントロジーを基本としているところに独自性と強みがあると思うので、その点をさらに伸ばして国際貢献を目指して欲しい。マウスリソースの利用拡大の起爆剤となる重要な事業であるので、さらに努力を継続して欲しい。
- ・ 社会的に汎用性の高いものを企画していただきたい。
- ・ 少し社会的な広報が不足していると思われる。

2. 各室・チームの運営にかかわる Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクルは機能しているか。

A. 前回の BRAC、レビュー委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項への対応状況について。

総評： 独自性を持ったプロジェクトとして進行しており、PDCA サイクルはよく回っている。

- ・ 国際マウス表現型情報ミーティングを国内(京都)で開催するなど、国際的なコンソーシアム等との連携を図るとともに、イニシアチブを取っているところは、指摘事項に対して良く対応しており評価できる。また、ヒト疾患情報についても、厚労省プロジェクトや大学中心の臨床医学オントロジープロジェクトにも参画しており、良く対応している。
- ・ それぞれの点で対応し改善されている。この 2 年間の発展は大いに評価できる。

B. 今中期計画の残りの 2 年間の方針及び実施計画について。

総評： 開発中の SaNets の実用化を目指して着実に進んで欲しい。

- ・ IT から ICT への拡大戦略もあると良いのではないかと。何を指すか、明らかにして欲しい。
- ・ ややわかりにくい部分もあるが、研究者の目線に立った進展を目指すとのことであり期待したい。
- ・ 重要なステップであり、必達の課題を挙げていると思う。少しスピードアップできる環境の創出が望ましい。
- ・ SciNetS を用いたリソースデータベースの充実と有用性の検証、自動アノテーションと検索システム開発など全般的に妥当な計画である。IMPC への参加については、表現型解析開発チームとの連携が必要である。

3. 各室・チームのセンター内外における連携活動及び国際連携の促進について(特筆する活動・成果があればご記入お願いいたします)。

- ・ 多方向のデータベースの統合を試みられており、連携活動は順調に進んでいると評価する。その中にもあっても、独自性を常に意識していることも高く評価する。
- ・ IKMC 等との連携が具体化しており、情報量が増加していくが自動アノテーションなどを取り入れた統合化が目指されており、成果が期待される。
- ・ 国内外ともに現時点で充分連携しているが、今後もイニシアチブを取って進めて欲しい。
- ・ 優位性の宣伝を是非お願いしたい。国際連携も進めており、一層の努力を期待する。

4. その他コメントがございましたらご記入お願いいたします。

- ・ 知財として著作権が発生する可能性が大きい。マウス管理システムの開発等は面白いのではないかと。
- ・ 新しい冒険を取り込んで、独創的なデータベースを構築して欲しい。今後に期待する。
- ・ アクセス解析等を利用するなどして、研究者のニーズをとらえる試みを取り入れて欲しい。
- ・ リソース事業に必須のユニットであり、さらなる努力を期待する。一般社会への解りやすい広報を望む。

以上